

# ながの環境エネルギーセンター



# ながの環境エネルギーセンターの概要

区分	ながの環境エネルギーセンター (H31.3.1稼働)	既存市清掃センター (S57.1稼働)
処理方式	焼却炉(ストーカ式) 灰溶融炉(電気式)	焼却炉(ストーカ式)
処理性能	焼却炉 405t/日 (135t×3炉) 灰溶融炉 22t/日 (22t×2炉)(1炉予備)	焼却炉 450t/日 (150t×3基)
施設規模(m)	概ね 100×85	概ね 100×45
施設高さ(m)	約 30(一部35)	約 28
煙突高さ(m)	約 80	約 80
発電能力(kW)	7,910	1,450

# ごみ発電からの電力購入モデル事業(3年間)

長野広域連合ごみ焼却施設の稼働を機に、長野市のごみから生み出される電力を、長野市の学校施設で活用するもの

## 背景

ながの環境エネルギーセンターが稼働

ごみ処理

高効率発電

災害時、緊急時を想定し、複数の供給体制による電源確保が望ましい。

学校施設に導入されるエアコンにより、電気使用量、電気料金の増加が想定

## 目指す方向

- ①電力の地産地消
- ②分散型電源の確保
- ③環境教育の推進
- ④CO2の排出抑制
- ⑤経費の抑制

快適な教育環境の確保と温暖化対策の推進を両立

## 【需要側】

小中学校・高校 80校

[デマンド値(H29)] 約5,000kW  
[年間電気使用量(H29)] 約1,000万kWh

## 【供給側】

ながの環境エネルギーセンター

[発電出力] 7,910kW  
[年間供給量(想定)] 約3,200万kWh  
[焼却能力] 405t/日

長野市ほか  
一般廃棄物

発電

バックアップ

一般電気事業者  
(電力会社)

日立造船(株) (PPS)

【主な業務】

- ・電力の調達・供給
- ・電力の需給管理
- ・常時監視、緊急時の対応 (365日24時間)

契約関係  
電気の流れ

# ごみ発電電力の学校施設導入による効果

- 1 環境教育の推進
- 2 電気料金の削減 R元年度実績：年間約2,500万円の削減(▲約11%)
- 3 CO2排出量の削減 R元年度実績：年間約3,700tの削減(▲約88%)  
(排出係数(kg-CO2/kWh)の低いごみ発電 日立造船(株)0.054、中部電力0.457)

エアコン導入対策にも有効

## 環境教育の推進

「自分達のごみが電気となり自分達の学校で使われている。」という環境教育の場を提供する。

- ・小学4年生の社会科見学
- ・環境学習会、環境イベント、えこねくしょん（小中学生全員に配布）
- ・出前講座

日立造船(株)、長野市、長野市地球温暖化防止活動推進センターで実施

### 【令和元年度実施実績】

7月17日(水) 第1回 篠ノ井西小学校 約120名

8月30日(金) 第2回 七二会小学校 4名

小学4年生向け社会科見学の事後学習として、クイズやモーターカーの実験キットを用いて、ごみ発電のしくみを学習

